

2004年8月の日本の天候

台風3個が上陸、
後半は低温（北日本、東日本）

8月の天気概況

前半は太平洋高気圧の北への張り出しが平年に比べて強く、台風の影響を受けた西日本太平洋側を除き晴れて気温の高い日が多かった。中頃からは北日本や東日本では次第に寒気の影響を受け気温が平年を下回るようになり、北日本では中旬と下旬に、東日本では下旬に低温となった。旬平均気温で低温となったのは北日本では4月下旬以来、東日本は3月上旬以来であった。下旬には台風の影響で西日本と南西諸島を中心に暴風雨となったほか、南からの暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で局地的に大雨があった。

台風は、8個発生し（平年5.5個）、平年より多い6個（第10、11、13、15、16、17号）が日本に接近（平年3.4個）、そのうち3個（第11、15、16号）が上陸した（平年0.9個）。8月に台風が3個上陸したのは1992年以来で、統計を開始した1951年以降で1962年の4個につぐ第2位タイとなった。

上旬：前半は台風第10号が西日本を通過した後、台風第11号が徳島県に上陸し、太平洋高気圧の縁を回って南から暖かく湿った空気が入ったため、西日本を中心に豪雨となった。そのほかの地方は前線のかかった北海道を除いて晴れ、東北・北陸地方では強い南西風が吹き、フェーン現象の影響で気温がかなり高くなった所があった。台風の通過後は太平洋高気圧に覆われ全国的に晴れて気温の高い日が多かったが、上空に強い寒気が入って大気の状態が不安定となり、短時間に強い雨の降った所があった。旬平均気温は、西日本で平年並のほかは高かった。旬降水量は、西日本太平洋側で多く、東日本日本海側と北日本で少なかったほかは平年並だった。旬日照時間は、西日本太平洋側で少なく、東日本日本海側と北日本太平洋側で多かったほかは平年並だった。

中旬：初めは台風第13号の影響により南西諸島で暴風雨となった。中頃には停滞前線が北日本から日本の南海上まで局地的な大雨を伴いながらゆっくり南下し、北・東日本を中心に寒気が入って気温が平年を下回るようになった。その後、台風第15号が九州西海上を北上し日本海を通過して青森県に上陸した。これに伴い前線が北上、南から暖かく湿った空気が入ったため、西日本や東北・北陸地方を中心に豪雨となった。旬平均気温は、北日本で低く西日本で高かったほかは平年並だった。旬降水量は、東日本太平洋側で平年並のほかは多かった。旬日照時間は、北・東日本太平洋側で多く、南西諸島で少なかったほかは平年並だった。

下旬：台風第15号の通過後に前線が南下し、西日本から本州南岸に停滞した。このため、北日本や東日本では気温が低くなり、前線付近の東日本、西日本の所々で強い雨が降った。その後、台風第17号が先島諸島を

西進し南西諸島で暴風雨となり、期末には台風第16号が鹿児島県に上陸し日本列島に沿って北上したため、広い範囲で暴風雨となった。旬平均気温は、北日本と東日本で低く、西日本で平年並、南西諸島で高かった。旬降水量は、北日本で少なく、東日本日本海側で平年並となったほかは多かった。旬日照時間は、北日本で多く、東日本日本海側で平年並となったほかは少なかった。

8月の気候統計

平均気温：北日本から東日本にかけては、平年をやや下回ったところがあったが、西日本では平年を上回ったところが多く、九州地方の一部では平年を1℃以上上回った。

降水量：西日本では平年を上回ったところが多かった。そのほかの地方では平年を下回り、平年の40%以下となったところがあった。四国地方の一部では平年の300%以上となり、多度津（香川県）など3地点では月降水量の最大値を更新した。一方、白河（福島県）では8月の月降水量の最小値を更新した。

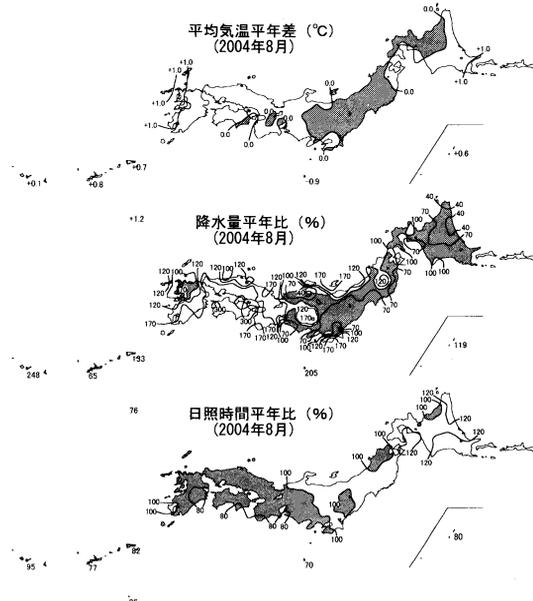
日照時間：北海道から関東甲信、北陸地方にかけては平年を上回り、それより西の地方では平年を下回った。北海道では平年の120%以上となったところがあった。一方、東海地方から南西諸島にかけては、平年の80%以下となったところがあった。

（気象庁観測部統計室）

8月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量の多い方から（mm）
多度津 349.0 宇和島 588.5 宿毛 693.0
- ・月降水量の少ない方から（mm）
白河 104.5

2004年8月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す